

# あなたのお店を拝見

## 『小林農機』を評価してもらえていることが 大きな財産となり、パワーとなる。

### 小林農機株式会社

その295

水稲中心ながら畜産、野菜の産出額も高い地域である兵庫県小野市で農機整備の高度な技術力で顧客の信頼を得る小林農機株式会社(兵庫県小野市河合西町392 代表取締役 小林正樹氏)を訪問した。

兵庫県小野市は「播州そば」や「播州織」に代表される家庭用刃物の生産地として古くから全国にその名を知られてきました。また酒米の山田錦を使ったパンなど小野市の農産品と特産品の中から味と品質にこだわった「小野うまいもんブランド」などに取り組みんでいます。



社長 小林正樹氏

JR加古川線、河合西駅から車で4分、県道349号線沿いの好立地に小林農機株式会社があります。小林農機は大正13年に小林正樹社長の祖父が創業し、今年で92年



小林農機株式会社

「よい肥料でよい米を作ってもらい、ライスセンターで乾燥して美味しく食べてもらいたい」との思いからライスセンターを作ったそうです。取り扱いは年々増えてきました。今後も大型農家やホビ―農家の農業全般の需要にこたえていきたいとのこと。

平成23年、現在会長の小林正幸氏の後を受け、44歳の時に小林正樹氏は3代目の社長に就任しました。小林社長は当初、ア

れる中、当時農機業界ではあまり実践されていないことに疑問を持つこともあり、常に広い視野で情報や経験値を高めていくことが必須になっていると強く感じているそうです。時に業界の常識は世間の非常識になっていることは、どこの業界でもあること。業界の非常識を常識に変える発想とパワーが会社のさらなる成長の起爆剤の一つとなつてほしいものです。

小林農機では、創業以来修理等のアフターサービスに力を入れてきました。新たに雇った従業員も1年目は整備に特化し、ある程度の修理が一人でできるようにする。2年目には外に出さず、2年目になってから外回り

以前から付き合いのあったヤママー販売店の縁もあり、2年前、主力の三菱の他にヤママーの商品も扱うことになりました。三菱とヤママーを扱ってからのお客様の反応について伺ったところ

「今も三菱が主力商品だが、ヤママーを扱うことでお客様にも商品を選択する幅が広がりました。ヤママーが思ったより」とヤママーを扱うメリットを話されたが、経営者の立場からは「それ以上にヤママーを扱ってから、これ

までのお客様から『小林農機』を評価し信頼していただいていたことを強く実感できたこと

小林農機のスタンス

「農機業界は、比較

## お客様の立場で、農機の有効活用を提案 「農家の困ったこと」の相談役になる。

ネット販売を始めました。ここでの売れ筋が小物類であったことから、日常の業務においても小物類への意識が高くなり、店頭や営業



展示会においてもお客様の視点で農機の見せ方を考えたり、POPも手作りし、お客様が欲しい情報を楽しみなで見せる工夫をしています。

農機以外の分野でもゴルフ場の機械等の整備など、これまで手をつけていない分野も検討していくべき時期にあると考えています。

農政の行方が不透明な中、もちろん、本業の農機に軸足を置いて、

新しいことも、しっかりと見極め取り入れていく必要があると考えています。お客様である農家に、正しくタイムリーな情報を提供し、喜んで頂くためにも日頃から国内はもとより、海外の農業についても広く情報を求めて続けていくことが大切であると感じているそうです。

今を感じると肌感に世代の差を感じながらも、社長、会長ともに同じ方向を向いてこれからの農機店の在り方成長戦略を考え進んでいく一体感に、大いなる可能性を感じました。



小林農機展示会